

2022年10月28日

各位

会社名 株式会社小僧寿し
 代表者名 代表取締役社長 良本 宜之
 (コード番号: 9973 STANDARD)
 問合せ先 経営企画部室長 毛利 謙久
 (TEL. 03-4586-1122)

2022年12月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2022年2月21日に公表いたしました、2022年12月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 2022年12月期の通期連結業績予想数値の修正 (2022年1月1日～2022年12月31日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円銭)
前回発表予想 (A)	12,600	120	120	60	0.36
今回発表予想 (B)	10,181	▲478	▲475	▲592	▲3.26
増減額 (B-A)	▲2,419	▲598	▲595	▲652	—
増減率 (%)	▲19.2%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年12月期 通期)	8,019	▲38	▲87	▲619	▲4.31

(2) 通期連結業績予想の修正理由

2022年12月期通期連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症が、当社の中核事業が属する「中食」「外食」業界へもたらす影響が不透明である中で、既存事業の成長性を鑑みた収益性の改善を見込み、業績予想を策定いたしました。当社は2022年2月21日に当該業績予想を開示した後、2021年12月2日に株式を取得いたしました、株式会社ミートクレストの株式譲渡 (2022年6月1日譲渡実施)、株式会社アノスピホールディングスの株式譲渡 (2022年10月17日譲渡実施) をいたしました。また一方で、アスラポート株式会社の株式取得による完全子会社化 (2022年7月1日実施)、株式会社TBJの株式取得による完全子会社化 (2022年10月3日実施) を行い、当該業績予想策定時点と比較し、各事業セグメントに属する事業や通期連結業績に与える影響が変遷しております。

当社は、当期に実施いたしました上記のM&Aに関しては、当該業績予想時点において業績の想定には含んでおらず、2022年12月期期首時点における既存事業セグメントの業績予想を踏まえて、当該業績予想を策定いたしました。前述する新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大によるまん延防止等重点措置の適用、当該ウイルスの再拡大等の影響を受け、外出機会減少に伴う利用機会の減少、デリバリー参入企業の増加に伴う顧客獲得競争の激化、海産物の原価価格やエネルギーコストの増加などは、主として当社の主軸事業である「持ち帰り寿し事業」「デリバリー事業」に対して、甚大な影響を与えました。

各事業セグメントにおける期首業績予想との差異は下記となっております。

[各事業セグメントにおける売上高、セグメント利益の業績予想差異]

(単位：百万円)

セグメント	業績予想 (修正前)		業績予想 (修正後)		差異	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
持ち帰り寿し事業	4,765	12	4,310	▲403	▲455	▲415
デリバリー事業	1,850	8	1,297	▲154	▲553	▲162
飲食事業	1,947	86	2,383	112	436	26
障がい者福祉事業(※1)	1,010	10	1,502	▲22	492	▲32
食肉関連事業(※2)	3,027	4	688	▲12	▲2,339	▲16

※1 「障がい者福祉事業」セグメントは、株式会社アニスピホールディングスの事業に該当致しますが、2022年10月17日に保有全株式を株式譲渡いたしましたので、2022年12月期第3四半期までを連結対象期間として算定しております。

※2 「食肉関連事業」セグメントは、株式会社ミートクレストの事業に該当致しますが、2022年6月1日に保有全株式を株式譲渡いたしましたので、2022年12月期第1四半期までを連結対象期間として算定しております。

【持ち帰り寿し事業】

持ち帰り寿し事業セグメントにおいては、新型コロナウイルス感染症のまん延による影響が生じる中で、外出自粛等の影響に伴う利用機会の減少により、既存店の売上高が前年と比較して減少したため、売上高は当初予想時点よりも、▲455百万円減少する予想です。

セグメント利益に関しましては、上記に記載する、海産物の原価の高騰を始め、商材価格の高騰が想定を上回り、かつ長期に及んでいることが、想定以上の収益減退に繋がり、セグメント利益は、当初予想時点より、▲415百万円の差異が生じる予想です。

【デリバリー事業】

前期より収益構造の改善に着手し、当期において黒字転換を想定するまでの改善を見通しておりましたが、商材価格の高騰による収益性の減退、エネルギーコストの増加による、自社デリバリー機能維持のための固定費増加など、収益性を圧迫した点、デリバリー事業の参入者の増加に伴う競争激化の影響による既存店の売上高減少、一部不採算店の閉店等を実施したことから、売上高は▲553百万円、セグメント利益は、当初予想時点より、▲162百万円の差異が生じる予想です。

【飲食事業】

飲食事業セグメントは、新型コロナウイルス感染症のまん延による影響が生じているものの、売上高が堅調に推移し、また、2022年7月1日にアスラポート株式会社、2022年10月3日に株式会社TBJを連結子会社としたことから、売上高は436百万円、セグメント利益は26百万円と、共に当初予想時点より、増加する予想です。

【障がい者福祉事業】

障がい者福祉事業セグメントは、株式会社アニスピホールディングスにおいて展開するペット共生型障がい者グループホーム「わおん」「にゃおん」の事業を中核とした、障がい者福祉事業に関連するものがあります。当該事業においては、「わおん」「にゃおん」の直営店の開設、加盟者の開発による開設を推進しているため、広告コストが増加する段階にあります。売上高も同様に増加しておりますが、当該広告コストの増加に伴い、セグメント利益において、一定の予想差異が生じております。なお、2022年10月17日付で、株式会社アニスピホールディングスの保有全株式を株式譲渡したため、2022年12月期通期連結業績には、2022年12月期第3四半期までの業績を連結対象としております。

【食肉関連事業】

食肉関連事業セグメントは、株式会社ミートクレストにおいて展開する、食肉関連事業に関連するものです。当該事業においては、2022年6月1日付で、株式会社ミートクレストの保有全株式を株式譲渡したため、2022年12月期第1四半期までの業績を連結対象としております。そのため、売上高、セグメント利益共に、一定の差異が生じたものでございます。

これらの影響を鑑み、通期の売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも、現在の通期連結業績予想値を下回る見通しとなりましたので、当該業績予想を下方修正することとなりました。

なお、今後も当社が主軸とする「中食」「外食」事業環境に注視しながら業績への影響を精査し、業績予想の修正が必要であると判断した場合には、速やかに開示をいたします。

また、当社では、現在の中期経営計画（FY2020 - FY2022）をリバイスし、2023年12月期を初年度とする3カ年の中期経営計画（FY2023 - FY2025）の策定を進めております。当該中期経営計画の中で、当社グループが継続的な成長を果たすうえでの事業計画をお知らせする予定であり、当該計画が完成次第、速やかに開示をいたします。

以上